

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月12日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	エバラ食品工業株式会社
【英訳名】	EBARA Foods Industry, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮崎 遵
【本店の所在の場所】	横浜市西区北幸二丁目5番15号 日総第三ビル
【電話番号】	(045) 314-0121 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 高井 孝佳
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区北幸二丁目5番15号 日総第三ビル
【電話番号】	(045) 314-0121 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 高井 孝佳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第2四半期 連結累計期間	第56期 第2四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	24,463,663	25,293,955	48,427,658
経常利益(千円)	1,034,925	1,194,836	1,431,805
四半期(当期)純利益(千円)	536,115	642,575	732,712
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	511,259	722,230	930,667
純資産額(千円)	19,378,754	18,207,673	17,734,426
総資産額(千円)	32,698,916	30,746,392	28,952,013
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	50.53	70.27	72.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	59.3	59.2	61.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,176,541	2,216,925	395,934
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	235,618	186,930	415,099
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	285,541	248,715	2,352,148
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	4,374,650	5,509,015	3,711,023

回次	第55期 第2四半期 連結会計期間	第56期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	40.35	49.16

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行っており、遡及処理後の数値で前年同四半期比較を行っております。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）におけるわが国経済は、金融緩和等の各種政策を背景に景況感は緩やかに改善されつつありますが、消費税増税による将来的な影響や所得環境の不安、日用品の値上げ等もあり、消費マインドの回復は依然として先行き不透明な状況にあります。食品業界におきましても、消費者の生活防衛意識や節約志向は依然として根強く、また、消費者ニーズも多様化しており、難しい経営環境が続いております。

当社グループは、エバラブランドの目指す姿である「新しいおいしさにより、そこに人が集い、笑顔が生まれる」の実現に向け、“たれ・素・スープ”を中心とした調味料でお客様との幅広い接点を持ち、家族の“絆づくり”やお客様のお役立ちを創造することをミッションとして経営を推進しております。当第2四半期連結累計期間においては、フェイスブックや会員制サイトのエバラClub等を活用し、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するとともに、肉の効能に関する啓蒙や「肉1tプレゼントキャンペーン」を展開する等、精肉需要全体の底上げを図り、また、発売35周年を迎えた『黄金の味』の活性化や既存商品の汎用性訴求、モザイク模様の消費者ニーズに対する商品開発等を進めることで、エバラブランドの価値向上を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、252億93百万円（前年同期比3.4%増）となりました。その主な要因としては、『にんにくのたれ』やメニュー専用調味料の『生姜焼のたれ』等が売上を伸ばし、また、8月に発売した『プチッと鍋』が好調なスタートを切ったこと、さらに、その他事業が好調に推移したことが挙げられます。利益面につきましては、売上高の増加に加え、売上原価率及び販管費率を前年同期水準以下に抑えたことにより、営業利益は12億22百万円（前年同期比17.9%増）、経常利益は11億94百万円（前年同期比15.5%増）、四半期純利益は6億42百万円（前年同期比19.9%増）となりました。

事業におけるセグメントの概況は、以下のとおりであります。

#### (食品事業)

家庭用商品は前年同期売上高を上回りました。

肉まわり調味料群につきましては、好調な精肉需要を背景に、ラインナップを強化した『焼肉のたれ』やプロモーションで使用機会を広げた『黄金の味』が底堅く推移したほか、『おろしのたれ』とともに父の日のキャンペーンで肉料理の定着化に取り組んだ『にんにくのたれ』が好調な売上を見せました。また、統一ブランド「たれプラス」を導入し、『生姜焼のたれ』等、簡単便利に料理の幅を広げられるメニュー専用調味料がラインナップを充実させて伸長した結果、前年同期実績を上回りました。鍋物調味料群につきましては、引き続き汎用調味料としての利用価値を高めた『すき焼のたれ』が堅調に推移したことに加え、1人前から家族で囲むごちそう鍋まで、いろいろなシーンに対応できるポーショントップの新商品『プチッと鍋』が好調な滑り出しを見せた結果、前年同期実績を上回りました。野菜まわり調味料群につきましては、第2四半期における野菜価格の高騰が大きく影響した結果、前年同期実績を下回り、『浅漬の素』も前年同期の水準にとどまりました。その他群につきましては、『横濱舶来亭カレーフレーク』が営業強化により売上を伸ばしたものの、他の商品が伸び悩み、前年同期実績を下回りました。

業務用商品につきましては、営業活動の強化が奏功したことに加え、肉まわり調味料群が消費者ニーズを捉えた新商品投入により売上を伸ばしたほか、スープ群も好調を維持し、その他群についても特注品の増加等により伸長した結果、前年同期売上高を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は223億89百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

#### (その他事業)

その他事業につきましては、既存顧客を中心に受注を伸ばした広告宣伝事業が前年同期実績を上回り、物流事業においても、積極的な営業活動により新規受注を獲得する等、前年同期実績を上回る好調な売上推移となりました。また、人材派遣事業においても、新規事業の取り組みが奏功したことにより前年同期実績を上回った結果、その他事業の売上高は29億4百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ17億97百万円増加し、55億9百万円となりました。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、22億16百万円（前年同四半期は11億76百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益11億92百万円を計上し、仕入債務の増加額が3億90百万円であったこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1億86百万円（前年同四半期は2億35百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4億1百万円等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2億48百万円（前年同四半期は2億85百万円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額2億46百万円等によるものであります。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、3億51百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,222,400
計	25,222,400

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,398,400	12,398,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	12,398,400	12,398,400	-	-

(注) 平成25年9月10日開催の取締役会決議により、平成25年10月1日付で単元株式数の変更に伴う定款の変更を行い、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	12,398,400	-	1,387,136	-	1,655,201

## (6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社ウッドヴィレッジ	横浜市西区北幸二丁目5-15	1,565	12.62
株式会社池竹研究所	横浜市港北区篠原西町30-3	1,209	9.75
エバラ食品工業株式会社 従業員持株会	横浜市西区北幸二丁目5-15 日総第三ビル	775	6.25
株式会社横浜銀行	中央区晴海一丁目8-12 晴海アイランドト リトンスクエアオフィスタワーZ棟(常 代)資産管理サービス信託銀行株式会社	360	2.90
森村忠司	横浜市港北区	292	2.36
株式会社榎本武平商店	江東区新大橋二丁目5-2	230	1.85
森村剛士	横浜市港北区	217	1.75
有限会社ケイアンドケイオフィ ス	横浜市港北区篠原台町2-25	180	1.45
東洋製罐グループホールディン グス株式会社	品川区東五反田二丁目18-1	130	1.04
渡邊啓一	横浜市港北区	121	0.98
計	-	5,081	40.98

(注) 上記のほか、自己株式が3,254千株あります。

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,254,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,958,000	8,958	-
単元未満株式	普通株式 186,400	-	-
発行済株式総数	12,398,400	-	-
総株主の議決権	-	8,958	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
エバラ食品工業株式会社	横浜市西区北幸二丁目5番15号	3,254,000	-	3,254,000	26.25
計	-	3,254,000	-	3,254,000	26.25

(注) 上記の他、単元未満株式630株を所有しております。

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,333,854	5,944,133
受取手形及び売掛金	9,311,308	9,157,462
有価証券	350,249	-
商品及び製品	1,338,793	1,412,021
原材料及び貯蔵品	520,692	549,666
繰延税金資産	384,979	385,365
その他	565,528	742,939
貸倒引当金	470	376
流動資産合計	16,804,937	18,191,212
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,008,831	3,008,831
その他(純額)	5,153,870	5,282,084
有形固定資産合計	8,162,702	8,290,915
無形固定資産		
	350,494	350,543
投資その他の資産		
投資有価証券	2,064,994	2,121,203
長期貸付金	44,784	181,541
繰延税金資産	884,553	884,894
その他	685,304	772,539
貸倒引当金	45,757	46,459
投資その他の資産合計	3,633,878	3,913,721
固定資産合計	12,147,075	12,555,180
資産合計	28,952,013	30,746,392

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,113,417	5,507,083
短期借入金	166,404	166,400
未払金	1,655,832	1,899,892
未払法人税等	110,949	550,336
賞与引当金	284,962	318,709
販売促進引当金	534,771	606,753
その他	363,649	367,095
流動負債合計	8,229,986	9,416,271
固定負債		
退職給付引当金	2,757,633	2,896,757
資産除去債務	11,725	11,807
その他	218,241	213,883
固定負債合計	2,987,601	3,122,448
負債合計	11,217,587	12,538,719
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,387,136	1,387,136
資本剰余金	1,655,257	1,655,257
利益剰余金	18,312,335	18,707,991
自己株式	3,925,336	3,927,401
株主資本合計	17,429,391	17,822,983
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	283,446	282,747
為替換算調整勘定	21,587	101,942
その他の包括利益累計額合計	305,034	384,689
純資産合計	17,734,426	18,207,673
負債純資産合計	28,952,013	30,746,392

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	24,463,663	25,293,955
売上原価	12,324,950	12,728,574
売上総利益	12,138,713	12,565,380
販売費及び一般管理費	11,101,492	11,342,878
営業利益	1,037,220	1,222,502
営業外収益		
受取利息	6,297	5,920
受取配当金	16,839	18,188
受取賃貸料	9,914	13,301
保険解約返戻金	22,893	2,032
その他	12,637	11,299
営業外収益合計	68,581	50,741
営業外費用		
支払利息	1,828	1,230
賃貸収入原価	6,994	10,297
持分法による投資損失	61,740	53,899
その他	313	12,979
営業外費用合計	70,875	78,407
経常利益	1,034,925	1,194,836
特別利益		
固定資産売却益	-	836
投資有価証券売却益	-	1,700
特別利益合計	-	2,536
特別損失		
固定資産除却損	30,184	4,279
投資有価証券評価損	3,447	240
その他	2,129	-
特別損失合計	35,761	4,519
税金等調整前四半期純利益	999,164	1,192,853
法人税等	463,048	550,278
少数株主損益調整前四半期純利益	536,115	642,575
四半期純利益	536,115	642,575

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	536,115	642,575
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,376	699
為替換算調整勘定	6,520	80,354
その他の包括利益合計	24,855	79,655
四半期包括利益	511,259	722,230
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	511,259	722,230
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	999,164	1,192,853
減価償却費	543,149	553,127
固定資産除却損	30,184	4,279
固定資産売却損益(は益)	-	836
投資有価証券売却損益(は益)	-	1,700
投資有価証券評価損益(は益)	3,447	240
貸倒引当金の増減額(は減少)	271	607
退職給付引当金の増減額(は減少)	910	139,123
賞与引当金の増減額(は減少)	2,461	33,747
販売促進引当金の増減額(は減少)	66,228	71,981
受取利息及び受取配当金	23,136	24,108
支払利息	1,828	1,230
持分法による投資損益(は益)	61,740	53,899
売上債権の増減額(は増加)	2,709,069	172,491
たな卸資産の増減額(は増加)	34,552	95,140
仕入債務の増減額(は減少)	479,852	390,085
未払消費税等の増減額(は減少)	1,096	47,746
長期未払金の増減額(は減少)	-	4,680
未払金の増減額(は減少)	73,721	90,733
その他	12,391	317,878
小計	669,653	2,307,802
利息及び配当金の受取額	22,835	24,084
利息の支払額	1,828	1,230
法人税等の支払額	527,896	113,730
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,176,541	2,216,925
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	5,512	3,763
貸付けによる支出	500	193,734
定期預金の払戻による収入	536,000	400,000
定期預金の預入による支出	312,032	12,037
投資有価証券の売却による収入	-	4,065
投資有価証券の取得による支出	4,321	4,022
有価証券の償還による収入	400,000	150,000
有価証券の取得による支出	699,800	-
関係会社株式の取得による支出	-	60,532
有形固定資産の売却による収入	-	1,127
有形固定資産の取得による支出	145,718	401,833
無形固定資産の取得による支出	54,962	53,408
その他	40,204	20,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	235,618	186,930

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	4
配当金の支払額	284,352	246,647
自己株式の取得による支出	1,188	2,064
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>285,541</b>	<b>248,715</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	977	16,712
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,696,724	1,797,991
現金及び現金同等物の期首残高	6,071,374	3,711,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,374,650	5,509,015

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

従来、「受取賃貸料」に対応する費用については、「売上原価」に含めて表示しておりましたが、重要性の観点から第1四半期連結会計期間より、営業外費用に「賃貸収入原価」として表示する方法に変更しております。

これは、当社グループの事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「売上原価」で表示していた6,994千円を営業外費用の「賃貸収入原価」に組み替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

次の会社のリース会社との契約について、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
青島康大食品有限公司	52,332千円 青島康大食品有限公司 48,017千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給料手当	1,568,317千円	1,564,107千円
退職給付費用	186,737	200,584
減価償却費	113,450	133,367
宣伝費	1,530,688	1,472,215
拡販費	3,062,773	3,274,735
賞与引当金繰入額	169,697	189,309
販売促進引当金繰入額	551,943	606,753

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	4,942,444千円	5,944,133千円
預入期間3ヶ月を超える定期預金	767,980	435,118
有価証券勘定	200,186	-
現金及び現金同等物	4,374,650	5,509,015

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月27日 取締役会	普通株式	286,457	27	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月30日 取締役会	普通株式	246,919	27	平成25年3月31日	平成25年6月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	食品事業		
売上高			
外部顧客に対する売上高	21,732,974	2,730,689	24,463,663
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	21,732,974	2,730,689	24,463,663
セグメント利益	1,198,863	59,253	1,258,117

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、物流事業、人材派遣事業を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,198,863
「その他」の区分の利益	59,253
全社費用(注)	220,896
四半期連結損益計算書の営業利益	1,037,220

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	食品事業		
売上高			
外部顧客に対する売上高	22,389,643	2,904,311	25,293,955
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	22,389,643	2,904,311	25,293,955
セグメント利益	1,401,351	50,921	1,452,272

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、物流事業、人材派遣事業を集約しております。
2. 「第4 経理の状況 注記事項（追加情報）」に記載のとおり、従来、「受取賃貸料」に対応する費用については、「売上原価」に含めて表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、営業外費用に「賃貸収入原価」として表示する方法に変更しております。この結果、遡及処理を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の食品事業のセグメント利益は、6,994千円増加しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	1,401,351
「その他」の区分の利益	50,921
全社費用(注)	229,770
四半期連結損益計算書の営業利益	1,222,502

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	50円53銭	70円27銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	536,115	642,575
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	536,115	642,575
普通株式の期中平均株式数(株)	10,609,085	9,144,314

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

エバラ食品工業株式会社

取締役会 御中

### 三優監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 杉田 純 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 昌敏 印

業務執行社員 公認会計士 熊谷 康司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエバラ食品工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エバラ食品工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。